

# 医学部における初年次教育の実践および改善検討

Implementation and Evaluation of First Year Medical Students Program

浅田 義和, 渥美 一弥

Yoshikazu ASADA, Kazuya ATSUMI

自治医科大学

Jichi Medical University

〈あらまし〉 2015年度より自治医科大学医学部で開講した初年次教育科目「医学部入門」について、その実践結果と次年度に向けた課題検討を報告する。授業では、スタディスキルや情報リテラシー、コミュニケーションスキルなどを項目として扱った。授業後の評価では、半数以上の学生からは満足の声を得られたが、一方で医学部に特化した内容をより深く広く学びたかったという改善要望の声も挙がっていた。2016年度に向けた改善として、シミュレーション等の実技と組み合わせ、より多面的に医学部の導入を行い、学習意欲を向上できるような仕組みを整えることを検討している。

〈キーワード〉 初年次教育, インストラクショナルデザイン, 大学教育, 医学教育, 授業改善

## 1. はじめに

近年、大学1年生に対する初年次教育は多くの大学で導入されてきている（初年次教育学会2013）。しかし、医学部における導入実践の報告はほとんどなされていない。医中誌での「初年次教育」検索結果は113件あるが、ほとんどが看護学部や薬学部等での報告である。今回、筆者の所属大学での初年次教育の実践を報告する。

## 2. 目的

自治医科大学において、2015年度より新設された1年生の必修講義「医学部入門」での初年次教育を実践した結果、および次年度に向けた改善検討を報告する。なお、本論文に先立って、2015年度の設計開発については一部発表を行っている（浅田 2015a, 浅田 2015b）。

## 3. 2015年度の実践

2015年度の実践結果について、ADDIEモデルに沿って記述する。

### 3.1 分析

受講生は医学部1年生であり、開講時期は4月の初旬となっている。このため、受講者は全員、入学試験を合格したという意味で学力に関する前提条件は揃っているといえる。一方、医学部入門の授業では情報リテラシーやスタディスキル等を扱っているが、これらの能力については入学試験の範囲には該当しないため、前提条件は必ずしも揃っていない。

また、本学の1年生は入学前に選択科目の登録

をmoodle上で行っている。ログイン操作や小テスト・フィードバックなど最低限の機能については資料を事前配布しており、操作も習得している。このため、授業後の課題や学習用教材としてmoodleを利用することが可能といえる。

### 3.2 設計

本科目の科目責任者は第二筆者であり、新規開講が決定した際の主目的は「医学生としての目標を再確認し、医療人にふさわしい成熟した人間性への涵養へのステップとする」こととしていた。また、以下の4項目を学習目標とした。

- 1) アカデミックスキルについて学び、今後の学習に必要な基礎技術を学ぶ
- 2) 大学生活への導入を円滑に進める為に、本学学生に求められるソーシャルスキルを学ぶ
- 3) 特にコミュニケーションの場でのスキルを演習として実践し、体得の手がかりを得る
- 4) 本学医学生に求められる種々の社会的規範についても確認し、より適切な言動につなげる

授業の評価については、各内容に関してレポートを提示し、その合計点で実施することとした。

### 3.3 開発

本科目は金曜の1・2限を利用し、70分×2枠を7週間に渡って行う時間割となっている。第一筆者は14回中5回を担当し、ガイダンス、情報リテラシーおよび全体のまとめを担当した。残りの7回については外部講師を依頼し、コミュニケーションやノートテイキング、模擬レポートの採点などをテーマとして扱った。

第一筆者の担当した授業では、マイクロフォーマット(向後 2014)を参考に、10分程度のレクチャー後にディスカッションおよび全体共有を行い、その内容をミニレポートとして授業後に提出させた。ミニレポートは基本的に moodle で行い、回によってはワークショップ機能を利用したピアレビューも取り入れることとした。

### 3. 4 実践

実際に授業を運営するにあたって、授業直後の振り返りについてはその場で記載・提出できる方が学習内容を省察しやすいと考え、紙媒体での提出も適宜とり入れた。また、授業終了時には5段階評価および自由記述でのアンケートを実施し、医学部入門全体に関する感想および次年度に向けて改善すべき点の意見を募った。

### 3. 5 評価

授業内容の適切さ(広さ・深さ)については、どちらも7割程度の学生が適切だと回答した一方、2割程度の学生は不適切だったと回答した。

情報リテラシーについては意見が二分しており、「情報があふれている現代において習得すべきように感じたから。」という肯定的な意見がある反面、「情報リテラシーは自分の知識で講義内容をカバーしていたため、あまり新しい情報がなかった。」など、一部の学生には既知の内容となってしまう。同様にスタディスキル、特にノートの取り方などについても意見が二分した。

コミュニケーションやソーシャルスキルについては複数回の授業が類似の内容・実施方法となってしまう、「やっつてることが似たり寄ったりだった。」といった否定的な意見が挙がっていた。

また、タイトルが「医学部入門」であるにも関わらず内容は一般的な初年次教育であったことから、「自治医科大学医学部の詳しいカリキュラム等を通して、この大学で学んでいくイメージをより鮮明にしたかった。」「話の切り出しから、さらに医学部の入門として医学にかかわる問題などもう少し深く考える内容を入れてもいいと思いました。」「タイトルにあるように医学部入門なので、最後の授業で紹介された医師国家試験についてのように医学部の実態についてもっと学べるとよかった。」など、医学部特有の内容を盛り込んで欲しいという声が多数見られた。

そのほか、「医学部ではやはり覚えることが多いので、効率の良い暗記方法や記憶力の維持方法

について授業でもっと扱ってもよいのではないかと、思いました。また、勉強や部活、バイトなどの両立の仕方には皆、関心があると思います。」「自己紹介・アイスブレイク、コミュニケーションの授業が最も役に立たなかった。自治医科大学医学部医学科は一番この授業をやってはいけない所だと思う。しかし、他の所では有用になるんだろうなと思う。」(注:自治医大は全寮制であるため、学生同士のコミュニケーションは他大学より密に行われていると考えられる)など、本学の特性にも結びついた意見が得られた。

## 4. 2016年度に向けた改善検討

2015年度の新規開講であったこともあり、次年度に向けた改善点は多数みられている。1つの改善点としては、コミュニケーション・ソーシャルスキルに関する時間を少し削減し、余剰時間を利用してシミュレーション等を利用した医学・医療に体験しつつ学習意欲を高められる時間を導入することである。例えば心肺蘇生法1つを取っても、単に胸骨圧迫や人工呼吸という手技(運動技能)を学ぶことに加え、「胸骨」や「循環」といった医学用語に触れ(言語情報)、物理・化学・生物といった基礎理科がどのように関係しているかを整理する(知的技能)ことが可能である。また、このような学習方法を体験することで、今後の学習においても類似の形式、すなわち、座学だけでなく、シミュレーションを通じて多様な方略を用いて学習を進めるという方略(認知的方略)を学ぶ機会にもなるであろう。

## 参考文献

- 初年次教育学会(2013)初年次教育の現状と未来。世界思想社、京都
- 浅田義和(2015a)医学部1年生を対象とする初年次教育の設計～情報リテラシー教育の必要性～。第9回医療系eラーニング全国交流会講演要旨集。p. 8-9.
- 浅田義和、渥美一弥(2015b)医学部1年生を対象とした新規必修講義「医学部入門」における初年次教育の実践計画。第7回日本医療教授システム学会総会プログラム・抄録集。p. 88-90.
- 向後千春(2014)マイクロフォーマットによる授業と研修のデザイン。日本教育工学会第30回全国大会講演論文集。p. 189-190.